２０１８年（平成３０年）９月２３日　日曜日

デーリー東北　１１面　掲載

光星、弘東 東北大会切符

青森県 秋季高校野球

第４日

秋季青森県高校野球選手権第４日は22日、弘前市はるか夢球場で準決勝２試合を行った。八学光星が青森山田にコールド勝ちし、弘前東は八戸工を下して、それぞれ決勝に進出。共に東北大会出場を決めた。

最終日の23日は、同球場で決勝と３位決定戦を行う。

（向中野一樹、五十嵐美咲）

きのうの結果

▽準決勝
八学光星17―1青森山田（5回コールド）
弘前東8―3八戸工

きょうの試合

【弘前市はるか夢】
▽3位決定戦
青森山田―八戸工（10・00）
▽決勝
八学光星―弘前東（12・30）

準決勝

青森山田 00010
八学光星 30113× 171
（5回コールド）
（青）堀田―工藤黎
（八）後藤―中澤
▽三塁打　中澤（八）▽二塁打　風穴、山本（青）近藤、伊藤、武岡、中澤、下山（八）

【評】八学光星は初回無死満塁から、近藤の2点適時打などで3点を先制。三回に1点を追加した後、四回には中澤の右中間への三塁打を皮切りに一挙13点を挙げて大勝した。青森山田は4点を追う四回、山本の左翼線への適時二塁打で1点を返すにとどまった。

守備乱れ大敗

○…ライバル・八学光星を相手に、大敗を喫した青森山田。完投した主戦堀田賢慎は17失点の結果に「実力不足を実感した。勝つのが難しいと感じた」と悔しさをにじませた。

初回から失策や暴投が相次いで、守備のリズムが乱れ、攻撃の流れもなかなかつかめなかった。工藤黎主将が「点を取られても、落ち着いていこう」とナインたちを鼓舞したが、なかなか好転しなかった。

「切れ目がなく、威圧感があった」と相手打線を評価した堀田。制球には自信があったものの、この日はプレッシャーのためか、いつもの投球ができなかった。「気持ちを切り替え、自分をコントロールすることを意識する」と3位決定戦での奮闘を誓った。

【青森山田】打安点振球
佐々木 2 1 0 0 0
岡部 1 0 0 0 0
風穴 1 1 1 0 0
山本 1 0 1 0 0
堀田 2 2 2 0 0
伊藤 2 2 2 0 0
工藤 2 2 2 0 0
堀田 0 0 0 0 1
犠盗失併残 1 0 4 0 2 17 3 1 5 0

【八学光星】打安点振球
伊藤 3 1 1 0 0
島崎 5 1 1 0 0
武岡 4 2 3 0 0
近藤 4 2 3 2 1
原 1 0 0 0 0
下澤 3 1 1 0 0
山岸 5 1 3 1 0
大後 2 0 1 1 0
中澤 3 3 2 1 0
犠盗失併残 2 0 0 5 2 5 14 1 7 1 7

投　手回　打安振球失
堀田 4　34 14 1 7 17
後藤 5　18 3 5 0 1

光星 打線爆発

初スタメン組 攻守躍動

【青森山田―八学光星】４回八学光星１死三塁、伊藤大将の適時二塁打で５―１とする＝はるか夢

八学光星は、今大会初めてスタメンに起用された伊藤大将、中澤英明の2人が攻守で大活躍。四回に10安打13点を挙げた猛攻で口火を切るなど、チームを勢いづけた。

四回1死の場面で、打席が巡ってきた中澤。「いい所に抜けた」と右中間を破る三塁打で好機をつくり、続く伊藤が二塁打で追加点を挙げた。これで勢いに乗った光星は快勝した。

故障からの復帰初戦となった伊藤はこの日、3安打の活躍を見せた。これまでの2試合はベンチで見守るだけだったが、「打ちたい気持ちが強かった。チームに貢献できて良かった」と満足げ。

1年生捕手の中澤は、前の試合まで出場していた太山皓二が故障のために出られなかったことから“代役”で出場。「スタメンが決まってからずっと緊張していた」という。攻撃で2安打を放ったほか、主戦後藤丈海をリードするなど、存在感を見せた。

今春から3季連続での県大会優勝に王手をかけ、伊藤は「力まずに自分たちの野球をして勝つ」と力を込めた。

（向中野一樹）

デーリー東北新聞社提供